

目次

第一部 学徒勤労働員はどのように行われたか

第一章 学徒勤労働員包囲網 23

 第一節 勤労奉仕を学校教育に導入する 23

 勤労奉仕、教育現場の対応、

 第二節 満蒙開拓青少年義勇軍 29

 満蒙開拓青少年義勇軍の創設、興亜青年勤労報国隊の派遣

 第三節 徴兵令とその改正、兵役法とその改正 35

 徴兵令から兵役法まで、

 第四節 修業年限の短縮、徴兵猶予の停止、学校制度の改変 37

 修業年限の短縮、徴集延期の停止・商業学校の転換、

 第五節 国民徴用令と女子挺身隊・女子勤労報国隊 43

 国民徴用令

 女子勤労挺身隊と女子勤労報国隊

 1. 福島県勤労働員協議会の開催・発足 2. 県の指令・指示・確認事項

 3. 相馬高等女学校同窓会女子勤労挺身隊の結成

 4. 女子勤労挺身隊の結成式から出動まで 5. 女子勤労報国隊の結成と活動

第二章 学徒勤労働員の開始 57

 第一節 4カ月動員と通年動員 57

 学徒勤労働員の開始

 第二節 動員の割当・配置はどのようにして行なわれたか 62

 割当・配置の組織・態勢、動員計画の作成、動員先の内定から決定まで

 決定までの二、三の証言、各校の出動日と動員先、表外学校の出動状況

 第三節 学徒の送出と受入 78

 送出と受入、…動員生活の一面－ 宿舍の状況－

 第四節 勤務の状況 89

 勤務の内容、職場の組織と編成、技術研修、

 第五節 福利厚生と学徒の生活 95

 1. 労務災害・疾病と医療

 作業中の災害や疾病と施療、出勤状況、疾病と医療、

 2. 食糧・食事・栄養不良・食中毒・伝染病・医療

 当時の食糧事情、飢餓と疾病と医療事情、海軍工廠以外の工場の衛生・食糧事情

 県内工場の衛生・食糧事情、学校・保護者会・県市町村の対応

 3. 学徒の日常－ 給与・報償金、学習と娯楽、外出・通信・交際・問題行動－

 給与・報償金、給与や報償金の支給の実態、学習、娯楽、外出・通信・交際、

 問題行動

第三章 情勢の変化と動員態勢の崩壊 136

 第一節 兵員の確保 136

 志願兵の激増

 第二節 継続動員－ 工員の確保－ 138

 実務科または専攻科の設置、進学延期

第三節 動員免除	141
動員免除	
第四節 工場内の空気、空襲と防空体制	142
工場内の空気、空襲と防空体制、空襲下の学徒	
第五節 工場疎開と学校工場化	164
工場疎開、学校工場についての当初の考え方、学校工場の具体化	
私立福島成蹊女子商業学校、日立製作所の工場疎開と学校工場化、沖電気の学校工場化	
県内中等学校・国民学校の学校工場化	
第六節 学校工場以外の疎開工場への動員	177
疎開工場と学徒動員	
第七節 いわゆる農兵隊―甲種食糧増産隊―	179
深刻な食糧不足、いわゆる農兵隊の創設、福島県の対応とその実態、	
第1中隊の出動状況、第11中隊の出動状況、卒業直前志願とその配慮	
農兵隊の修了	
第八節 動員の解除と実務科または専攻科の修了	184
敗戦と動員の海上と帰校・帰郷	
第九節 勤労働員の終焉	202
動員態勢の空洞化、平山さんの予言、学校工場の戦後処理、敗戦・解除・帰郷	
終らざる夏	

第二部 学徒勤労働員はどのように伝えられたか

第一章 隠 滅	209
磐城高等女学校の場合、桑折釀芳国民学校と伊達教育部会桑折支会の場合	
学校以外での書類の焼却(福島フ工場の場合、在郷軍人会の場合)	
保存の努力	
第二章 学徒の処遇と体験の記録	213
第一節 学徒の処遇	213
犠牲者とその処遇、学徒援護会の活動、慰霊・供養・建碑、	
幻の卒業式と心の卒業証書、	
第二節 体験の記録―語り伝えと記録―	217
語り伝え―教材化と朗読劇―、国産電機の学徒、	
昭和電工広田工場の学徒、横河電機の挺身隊員、東京衡機の学徒、	
横須賀海軍工廠の学徒、生徒自らが調べる、社会科の夏休みの課題と集録	
博物館などの観展施設の活動、世代を越えて「学徒動員」を語る座談会	
第三節 動員学徒に対する国の対応	223
1998年当時の社会保険庁、学徒動員は厚生年金の対象にならない	
付録1. 福島県の学徒勤労働員を記録する会の調査活動(年譜)	226
2. 参考文献一覧―記録・回想集などのリストに代えて―	230
3. 女子挺身隊・学徒勤労働員の実態(学校別一覧)	242
4. 「福島県の学徒勤労働員の記録」の協力者等	364

あ と が き	367
---------	-----